

みどりの風

令和3年11月10日(水) 発行人: 校長 角田 亮明

緑
の
誓
い

- さわやかにあいさつをします
- 進んで勉強をします
- きまりを守ります
- 心をこめて掃除をします
- みんなと仲良くします

「読書の秋」 素敵なお手紙のやりとり

令和3年度：第50回長崎県読書感想文コンクールで、本校6年生の貞方 大樹くんが高学年の部「優良賞」に選ばれました。最優秀賞、優秀賞に続く上から3番目の賞です。感想文のタイトルは「お菓子は平和の象徴」です。バウムクーヘンとヒロシマ ～ドイツ人捕虜ユーハイムの物語～という本の感想文です。第一次世界大戦の捕虜として広島島の離島：似島に強制的に連れて来られ、第二次世界大戦時まで日本で過ごしたドイツ人：カール・ユーハイムの生涯を、現代の広島市の小学生の経験を通じて描いた平和図書です。このユーハイムという人が日本に初めてバウムクーヘンを伝えた人らしく、作ったバウムクーヘンを広島市内の物産陳列館で売っていたとのこと。この物産陳列館がのちに原爆ドームと呼ばれるようになるのだそうです。この本を読んだ貞方くんは、なんと自分の書いた感想文を作者である「巢山ひろみ」さんに送りました。自分の素直な気持ちを伝えたかったからです。すると、何と巢山さんから直接、丁寧な返事が届きました。何と素敵なお手紙のやりとりでしょう。貞方くんの了解のもと、巢山さんからの手紙を掲載することにしました。

貞方 大樹 様

はじめまして。「バウムクーヘンとヒロシマ」の作者の巢山です。

このたび、くもん出版社から、大樹くんの感想文とお母さまのお手紙が送られてきました。とてもうれしく読ませていただきました。

大樹くんは、本の颯太と同じ小学6年生で、バウムクーヘンが大好きとのこと。いろいろと共通点がありますね。ひいおばあちゃんの弟さんが戦争で亡くなっていて、その方はカステラが大好きだった。のこされたご家族はカステラを口にするたび、くりかえし、食べさせてあげたかったなあと思われたことでしょう。

広島にも長崎にも同じ苦しみのあったことを、大樹くんの感想文からあらためて考えさせられました。

「おじいちゃんが食べることができなかったカステラを、僕はお腹いっぱい食べました」というところを読んだとき、涙がこぼれそうになりました。

大樹くんがうれしそうにカステラをほおぼるのを、ひいおばあちゃんも、ひいおばあちゃんの弟さんも、きっと喜んでおられると思います。

本からまさに、わたしの伝えたかったことをじゅうぶんに感じとってくださった大樹くん。本当にありがとうございます。これから世界の未来を、優しく強いその心で、どうぞつくってってください。 2021. 10. 11 巢山ひろみ

心温まるお手紙。バウムクーヘンとヒロシマという本を読んできてみたいになりました。そして、大樹くんの感想文を読みたいと思いました。いずれ機会を見つけて紹介します。

